

イノベーション フロム カサマ

I F K (Innovation From Kasama) の活動報告 ふるさとまつりinかさまで出店！



さらに今回は、マレーシアと中国から日本の大学にきている二人の留学生の協力のもと、中国語の言葉クイズ遊びも行われました。中華料理店のように、中国語の書かれたプレートが並べられ、それが日本語ではどういう意味になるのかを推測してもらうという内容です。このクイズは、子どもたちだけでなく大人の方にも大盛況で、漢字そのものの発音や意味から正解がわかると、参加者からは、「なるほど」と納得の声が聞こえていました。I F Kメンバーの小林 楓さんは、「今後も、市内に住む外国人の方々とも交流を深め、笠間市内のみなさんに向けた国際交流イベントを展開していきたい」と話していました。

青年海外派遣事業に参加した青年たちにより組織されたI F Kが、昨年10月に開催された「ふるさとまつりinかさま」において、会場の一画にブースを設け、ハロウィンにちなんだイベントを中心に国際交流事業を行いました。

ハロウィンはアイルランドが発祥の地とされています。I F Kは、メンバーの知人を通して、現地から写真などを送ってもらいパネルをつくり、ハロウィンの由来や遊びなどを紹介しました。また、ジャック・オ・ランタン（かぼちゃをくり抜いたランタン）づくりや、ぬり絵・切り絵などのワークシッポを通して、子どもたちに海外の文化を体験する場を提供しました。



I F Kメンバーと留学生♪



中国語「言葉クイズ」 どういう意味かな？



どの子もジャック・オ・ランタンづくりに真剣です。



料理の指導を受ける参加者

親子ふれあい料理教室

11月17日（土）宍戸小学校（栗原範子校長）で親子ふれあい料理教室が開催され、同校4・6年生の14組35名の親子が参加しました。

当日は笠間市ヘルスリダーの会宍戸小学校区の皆さんの協力のもと、さんまの蒲焼の缶詰を使った炊き込みごはんや蓮根バーグの野菜あんかけ、コールスローサラダなどを作り、出来たてのおいしい料理を味わいながら、楽しい時間を過ごしたようでした。

この料理教室は、LPGガスの安全性と利便性を学びながら親子のふれあいを目的として、茨城県高圧ガス保安協会笠間支部により開催され、安全で便利機能が充実したSiセンサーコンロ7台が宍戸小学校に寄贈されました。

一步一步「来年へ歩く会」



階段を登りきった参加者に記念品を手渡す

昨年12月31日（月）に毎年恒例の「来年へ歩く会」が行われました。受付時間前の午後10時頃から、出発場所となる旧歌舞伎駐車場にぞくぞくと車が集まり、帽子、マフラー、防寒着など、夜の寒さに備えた身支度で車から降りてくる参加者たち。ご家族連れや友達グループなど、今年は300名を超える参加者が一步一步、新しい年に向けて愛宕山を登りました。

本当に寒い冬の夜でしたが、ゴール直前の300段を越える階段を登りきると、参加者の額には汗が滲んでいました。「汗を良く拭いて、風邪をひかないようにね。」と登りきった参加者に一人ひとり声をかけていました。



笠間市の発展を祈念して乾杯

笠間市新年賀詞交歓会

1月4日(金)、新春恒例の笠間市賀詞交歓会がパークスガーデンプレイスで開催されました。

まちづくりに関わる市民をはじめ、国会議員や県議会議員、市議会議員、地元企業、公募による参加者、各界で活躍している特別招待者など約400名が一堂に会し、新年の幕開けを祝いました。

当日は2部構成で行われ、第1部ではロンドン五輪日本代表選手団総監督、塚原光男さんによる「果てしなき挑戦」金メダルへの道」と題する講演会、第2部は立食形式のパartyが開かれました。参加者は新年のあいさつを交わし、会場は終始和やかな雰囲気につつまれていました。



演技を披露する参加者

～心のバリアフリーを目指して～ 『第7回みんなの音楽祭』

1月12日(土)、笠間公民館大ホールにおいて「第7回みんなの音楽祭」が開催されました。この音楽祭は、市内4つの障害者(児)施設をはじめ、身体障害者福祉協会、手をつなぐ育成会、ボランティア演奏グループ「トワイライト」が一堂に会し、障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しむ、音楽の力で心のバリアフリーを目指すために、ボランティア等の協力を得て開催されているものです。

合唱、合奏やダンスなどバリエーション豊かな発表が繰り広げられ、ステージと客席が一体となって楽しみ、次回も笑顔で会えるよう約束しました。



燃え盛る炎の勢いに圧倒されます

真っ赤に燃えた「どんと焼き」

1月13日(日)に旧第一分校(上郷)を中心に、「どんと焼き」という、しめなわや古いお札のお焚きあげが行われました。当日は地域内外の方々が多数集まり、つきたてのお餅や打ちたてのお蕎麦を楽しみました。今年には特に「銀座ミツバチプロジェクト」の方々も参加され、地元で取れた食材で料理をおもてなしました。

どんと焼きでは、5mを超える小屋を作り、その周りに古いお札などをくくりつけて一緒に燃やします。小屋に火をつけると一気に燃え上がり、その炎は「壮観」の一言。「残り火で焼いたお餅を食べると、その一年は風邪もひかないんだよ」と地元のお年寄りの方が話していました。



左から上野さん、瀧本さん、諸星さん

農林水産大臣賞を受賞

果樹の栽培技術の向上並びに生産意欲の向上を目的に開催された、平成24年度茨城県生産力向上共励会(くり)において、瀧本光義さん(南友部)が1等にあたる農林水産大臣賞を受賞しました。また、同じく2等にあたる茨城県農林水産部長賞を上野邦英さん(長兎路)、3等を河村東一さん(旭町)、同じく3等を諸星一郎さん(笠間)が受賞しました。

受賞後、瀧本さんは、「これから、高品質のくりを生産できるように、まい進していきます。」と抱負を語りました。